



佐賀市文化会館 開館30周年記念 パネル展



市長あいさつ



佐賀市長 秀島敏行

佐賀市文化会館は、平成元年に本市の文化芸術活動の拠点施設として誕生し、本年開館30周年を迎えました。

開館以来、県内外から多くの方々に訪れていただき、年間約40万人の方々に利用いただいておりますことは、大変喜ばしく、これも、文化会館をご利用いただいている市民の皆様のご支援、そして文化芸術及び文化会館運営に携わる関係各位のご尽力の賜物と、心から感謝申し上げます。

身近なところにすぐれた文化芸術に触れ、皆様に親しくご利用いただける施設があることは、地域にとって大きな財産です。文化会館が豊かな人間性を育み、創造性あふれる佐賀文化の振興のシンボルとして、また、これからも皆様から愛され、語らいの場、ふれあいの場として、人々の心が通い合う施設となりますよう努めてまいりますので、なお一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

理事長あいさつ



(公財)佐賀市文化振興財団
理事長 古賀盛夫

佐賀市文化会館は、優れた芸術文化に触れる場として、また市民の芸術文化の発表の拠点として、市民の方々の大きな期待と共に平成元年10月1日に開館しました。

以来、今日まで「地域に根ざした芸術文化の発信地」として活動してまいりました。市民の皆様をはじめ多くの方々のご支援・ご理解により30年を迎えられたものと、心より感謝申し上げます。

この30年の間、国内外の演奏家による素晴らしい公演が行われ、市内の様々な団体が特色ある文化活動を発表されております。平成25年より始まりました佐賀市民芸術祭も回を重ねる毎に多くの方が参加され、着実に市民文化は向上しているものと確信いたしております。

佐賀市文化会館を運営するために設立された財団も同じく30周年を迎えました。これからも更に多くの市民の皆様にあられる施設となるように、佐賀市の文化振興に寄与してまいります。皆様方のご指導、ご支援を心からお願い申し上げます。

建設から開館まで

1982年(昭和57年)12月23日に策定された当時の佐賀市総合計画で、総合的文化施設建設の推進が打ち出され、文化会館建設の準備が始まりました。1984年(昭和59年)8月25日の建設予定地の決定、1986年(昭和61年)2月11日の設計競技による設計業者の決定、1987年(昭和62年)8月21日の工事着工などを経て、1989年(平成元年)7月31日に文化会館が完成し、同年10月1日に開館しました。



市報さがが1988年(昭和63年)1月号
着々と進む総合文化会館建設工事



市報さがが1989年(平成元年)2月号
文化会館の利用受付始まる



市報さがが1990年(平成2年)1月号
文化会館落成テープカット



1989年(平成元年)8月27日撮影

文化振興財団の設立

文化会館の優れた施設や機能を十分に生かし、市民の芸術文化活動の中心施設とするためには、その特殊性、専門性に対応する効率的、弾力的運営が欠かせません。そこで、1989年(平成元年)3月27日に財団法人佐賀市文化振興財団を設立し、文化会館の管理運営を継続的にを行っています。

開館直後

オープンを記念し12月まで多彩な催しが行われました。市民文化祭(10月2日～12日)、レニングラード・フィルハーモニー交響楽団公演(指揮:ユーリ・テミルカーノフ氏、10月14日)、棟方志功展(11月1日～7日)、パリ「木の十字架少年合唱団」(安田祥子・若楠少年少女合唱団出演、11月28日)、『89さが県民「第九」公演(12月17日)などの催しに100,556人の方がご来場くださいました。

催物案内誌「新風」

開館から4ヶ月目の1990年(平成2年)1月に第1号を発行し、2018年(平成30年)10月で346号になります。文化会館の催物案内を中心に寄稿文なども掲載されており、文化の面からその時の佐賀を知ることができる案内誌です。

シンボルマーク

1990年(平成2年)4月から皆様に親しんでいただくためにシンボルマークの使用を始めました。3つの“文化”の渦が互いに波紋を広げ融合しつつあるところをイメージし表現したものです。3つの“文化の渦”とは、①日本古来の伝統文化、②現代日本の若者文化、③世界のあらゆる文化です。シンボルマークのカラーは、大ホール、中ホール、イベントホールのイメージカラー、グリーン、ピンク、ブルーを配色しています。

グリーン: 青々と広がる佐賀平野
ピンク: サザンカの華やかさ
ブルー: 有田焼の焼色呉須の青



「マグパイ倶楽部」

多くの方々に催物の情報を提供し、文化会館と皆様とのコミュニケーションを図るために、文化会館友の会「マグパイ倶楽部」が1990年4月に発足しました。「マグパイ」とは佐賀県の県鳥カササギの英語名で、文化会館に愛着や親しみを持っていただけるように名づけられたものです。

キャラクターの愛称は「かち丸」です。現在も個人1,203人、法人7団体9,075人(2017年度末(平成29年度末))の方に加入いただいています。



大ホールの音の響き

大ホールの音響は、クラシック音楽の演奏に重点を置いて考えられています。客席の平面形は左右（上手側と下手側）非対称になっています。また、天井面の投光用開口部に電動の蓋が取り付けられていて、クラシック音楽などの生の音を楽しむ、響きの長い状態のときは、この舞台照明用の開口を閉めることで、天井の反射面が連続して形成されるように考えられています。クラシック音楽の演奏に適した長い響きが得られる工夫は、内装仕上材の選定、配置にも行き届いており、ホールの素晴らしい音の響きにつながっています。大ホールは1つの音が100万分の1まで小さくなるときの時間（残響時間）が2.1秒（80%入場時）で音が消えにくいつくりになっています。大ホールで演奏された方々から、文化会館の音の響きは素晴らしいとの声をいただいています。

参考：「建築と社会」1990年2月号「特集 佐賀市文化会館 ホールの響き」古川宣一
（ふるかわせんいち／古川建築音響研究所
元NHKエンジニアリングサービス建築音響技術部部长）

大ホールの白磁の壁

舞台左右の壁は、佐賀を代表する焼物、有田焼の白磁のタイルでつくられています。音を拡散させる音響的な効果、そして舞台に広がりをもたせる視覚的な効果があります。



大ホール 緞帳

中央に県木クスが枝を広げ、太陽の光が降り注ぐ中、県鳥のカチガラスが羽ばたいています。周りには佐賀城の鯨の門、面浮立と田楽、サザンカ、緑の山並み、バルーンが描かれ、自然と伝統文化があふれる佐賀を表現しています。
（寄贈者：株式会社佐賀新聞社様）

佐賀錦をモチーフにしたタイル

江戸時代、佐賀藩の武家の婦人の間で織られたといわれる美しい錦織りの模様をモチーフにロビーのタイルが敷き詰められています。



稲穂のシャンデリア

ロビーの照明は佐賀平野の収穫を象徴する稲束をモチーフにし、豊かな自然の恵みを表しています。



文化開館
が開館してすぐだった
と思います。世界的に有名な
レイモンド・ル・フェーヴル
オーケストラの演奏を聴きました。
最前列の席で演奏家の表情までハッ
キリ見えて本当に楽しいひとときで
した。東京など都会に行かずとも佐賀
の地で素晴らしい文化会館でさま
ざまな催しを現在も楽しんで
おります。

久保敏子さん

佐賀市
文化会館、開館30周年
おめでとうございます。往時
の頃が走馬灯の如くかけ巡りま
した。忘れもしないこけら落としの
レニングラードフィルのハーモニーは
感動以外の何ものでもなく、身体
の芯が震えた思いを覚えております。
1万円近いチケット代を大奮発した事
と合わせて、良き思い出として
記憶に焼きつけています。

牟田京子さん

日の出
の団地に住んでいた
私は、文化会館の一般公開
があると聞き、主人と2人で見学
に行くことにしました。10月に出産
を控えていたため、車で行ったので
すが……。長い車の列に「歩いてくれ
ばよかった。」と後悔しました。開館よ
り早い9月28日に国立病院で女の
子を出産しました。30周年おめ
でとうございます。

大田聖美さん

開館30年
おめでとうございます。
15年前の五木寛之さん
の「生きる」という講演会が特に
印象に残っています。大病後まだ
辛い時「生きる力」を貰い、前向き
になるきっかけとなりました。それか
らは、コンサート、舞台鑑賞等が私の生
きがよいとなっています。これからも
素晴らしい公演を続けてくださ
る様願っています。

藤井正子さん

開演前
必ず「緞帳」を見つめ
ます。どうして？ それは30年
前に「緞帳」をヒントに童話「こけ
らおとしの日の友だち」を書いたの
です。会館内でハプニングがおこり
最後は友情が芽ばえるというストー
リーでした。(まぐれで二席入賞!)
審査員の言葉「文化会館は、私達
佐賀市民の宝物ですね」が今
でも強く心に残っています。

的野勝さん

文化会館開館30周年お祝い・思い出メッセージ

寄せられた素敵なメッセージです。

(原文のまま掲載)

2018年
11月に30年
ぶりに佐賀に
来られるユーリ・
テミルカーノフさん
のメッセー
ジです。

30周年

おめでとうございます。

私がサントペテルブルグ・
フィルハーモニー交響楽団(当時の
レニングラード・フィルハーモニー交響楽団)
の芸術監督・首席指揮者に選任されたのは
1988年でした。佐賀市文化会館と同じく、今年
30周年を迎えます。開館記念のコンサートで30年
前に演奏会を行った佐賀市文化会館に再び戻
ることが出来、大変嬉しく思っております。私とオー
ケストラから心からの祝辞をお送りすると共に、
日本の美しい自然に恵まれた佐賀市を再び
訪れることを大変心待ちにしております。

ユーリ・テミルカーノフ
(Yuri Temirkanov)



1989年10月14日レニングラード・フィルハーモニー交響楽団公演後、首席指揮者・音楽監督ユーリ・テミルカーノフ氏(左から4人目)「建築と社会」1990年2月号から転載)

30年前
の感動。アンコール曲
「くるみ割り人形のパドゥ」
の最後、ホール一杯に響き渡る
シンバルの音、静寂、そして大きな
拍手。ところで、この曲の最後にシン
バルを使う演奏は聴いたことがないの
ですが、あれはきっと、こけら落としの
フィナーレを飾る佐賀公演だけの
特別な演出だったのでしょ
うね、テミルカーノフさん。

岩永俊一郎さん

佐賀市
文化会館開館30周
年、本当におめでとうございます。
私の素晴らしい思い出として
は毎年12月に開催されている外国
人主催のチャリティークリスマス・パ
ーティー。そして3月に開催されてい
る佐賀県立佐賀北高等学校芸術コース
書道科卒業作品展。さらに毎回吹奏
楽のコンサートも大いに楽しんで
います。「ハッピー」。

五郎川白光さん

22年前に、
サッチャー女史の講
演を聴きました。入口でバック
内のチェックを受けた事や同時
通訳のヘッドホン借りた事など、
私には新鮮な初体験。講演の趣旨
は、①「歴史をよく学ぶ」②「国際理解
を深め、世界共通のルールや理念を
求める」だったと思います。信念と力
強さに満ちたすばらしい講演で、
文化会館での素敵な思い出
です。

松崎信子さん

自宅を新築し、我家も30年
目。いろんなことがあった30年
間、多くの歴史が刻まれました。
長女が文化会館の大ホールでの
演奏会、ハラハラドキドキで聴い
ていました。私にとって文化会館
も我家同様一杯の体験をさ
せて頂いた所です。

匿名希望

大ホール
で毎年行われてい
る、母校の定期演奏会は私
の子育ての大切な思い出。息子
が3歳の時から年1回のその時を
楽しんで行っていました。生演奏の
迫力に触れ、二人で一緒に楽しんで
いた思い出は私にとっての宝物で
す。その息子も来年は20歳になり
ます。大ホール!素敵な思い出を
ありがとう!

古賀美紀さん

私には
日本舞踊の恩師であ
る故藤間勘賀師を偲ぶ思
い出深い場所。藤波会を主宰し
盛り上げ、毎回、大ホールは満席。
佐賀の伝統芸能の継承・発展に貢献
し、弟子もファンも多いスターです。創
作舞踊「卑弥呼」の上演は国立劇場で
の公演へと発展。スポットライトが
照らす姿は舞台の花らしく、いつ
までも佐賀の卑弥呼です。

中野美和子さん



佐賀市文化会館の取り組み

(平成元年10月～平成30年3月)

主催事業数 407事業、560公演、
主催事業入場者数 471,265人
体験活動事業 28企画、54公演、3009人
学校、福祉施設等へのアウトリーチ 75公演、14,163人(平成23年度～29年度)
催物での使用件数 大ホール4,364件、中ホール4,507件、イベントホール5,412件
佐賀市民芸術祭入場者数 51,000人(平成25年度～29年度)
総入場者数 11,827,767人



佐賀市文化会館

催物案内誌

1990年1月～1994年3月

新風の軌跡

The monthly magazine for music & play lovers



1990年1月(創刊)

1990年2月

1990年3月



1990年4月

1990年5月

1990年6月

1990年7月

1990年8月

1990年9月

1990年10月

1990年11月

1990年12月

1991年1月

1991年2月

1991年3月



1991年4月

1991年5月

1991年6月

1991年7月

1991年8月

1991年9月

1991年10月

1991年11月

1991年12月

1992年1月

1992年2月

1992年3月



1992年4月

1992年5月

1992年6月

1992年7月

1992年8月

1992年9月

1992年10月

1992年11月

1992年12月

1993年1月

1993年2月

1993年3月



1993年4月

1993年5月

1993年6月

1993年7月

1993年8月

1993年9月

1993年10月

1993年11月

1993年12月

1994年1月

1994年2月

1994年3月

佐賀市文化会館 催物案内誌「新風」の軌跡 1994年4月～1999年3月



佐賀市文化会館 催物案内誌「新風」の軌跡 1999年4月～2004年3月



1999年4月 1999年5月 1999年6月 1999年7月 1999年8月 1999年9月 1999年10月 1999年11月 1999年12月 2000年1月 2000年2月 2000年3月



2000年4月 2000年5月 2000年6月 2000年7月 2000年8月 2000年9月 2000年10月 2000年11月 2000年12月 2001年1月 2001年2月 2001年3月



2001年4月 2001年5月 2001年6月 2001年7月 2001年8月 2001年9月 2001年10月 2001年11月 2001年12月 2002年1月 2002年2月 2002年3月



2002年4月 2002年5月 2002年6月 2002年7月 2002年8月 2002年9月 2002年10月 2002年11月 2002年12月 2003年1月 2003年2月 2003年3月



2003年4月 2003年5月 2003年6月 2003年7月 2003年8月 2003年9月 2003年10月 2003年11月 2003年12月 2004年1月 2004年2月 2004年3月

佐賀市文化会館 催物案内誌「新風」の軌跡 2004年4月～2009年3月



2004年4月 2004年5月 2004年6月 2004年7月 2004年8月 2004年9月 2004年10月 2004年11月 2004年12月 2005年1月 2005年2月 2005年3月



2005年4月 2005年5月 2005年6月 2005年7月 2005年8月 2005年9月 2005年10月 2005年11月 2005年12月 2006年1月 2006年2月 2006年3月



2006年4月 2006年5月 2006年6月 2006年7月 2006年8月 2006年9月 2006年10月 2006年11月 2006年12月 2007年1月 2007年2月 2007年3月



2007年4月 2007年5月 2007年6月 2007年7月 2007年8月 2007年9月 2007年10月 2007年11月 2007年12月 2008年1月 2008年2月 2008年3月



2008年4月 2008年5月 2008年6月 2008年7月 2008年8月 2008年9月 2008年10月 2008年11月 2008年12月 2009年1月 2009年2月 2009年3月

佐賀市文化会館 催物案内誌「新風」の軌跡 2009年4月～2014年3月



佐賀市文化会館 催物案内誌「新風」の軌跡 2014年4月～2018年10月



2014年4月 2014年5月 2014年6月 2014年7月 2014年8月 2014年9月 2014年10月 2014年11月 2014年12月 2015年1月 2015年2月 2015年3月



2015年4月 2015年5月 2015年6月 2015年7月 2015年8月 2015年9月 2015年10月 2015年11月 2015年12月 2016年1月 2016年2月 2016年3月



2016年4月 2016年5月 2016年6月 2016年7月 2016年8月 2016年9月 2016年10月 2016年11月 2016年12月 2017年1月 2017年2月 2017年3月



2017年4月 2017年5月 2017年6月 2017年7月 2017年8月 2017年9月 2017年10月 2017年11月 2017年12月 2018年1月 2018年2月 2018年3月



2018年4月 2018年5月 2018年6月 2018年7月 2018年8月 2018年9月 2018年10月